



## 促成ナスのセル成型苗直接定植を用いた養液土耕栽培

促成ナス栽培では通常、セル成型苗の2次育苗を行い、ある程度の大きさの苗を定植します。これはセル成型苗のような若苗を定植すると、栄養生長に偏るため石ナスの発生や過繁茂により低収となるためです。しかし、セル成型苗を直接定植できれば育苗作業や定植作業の省力・軽労化が見込めます。そこで初期生育をコントロールしやすい養液土耕栽培を用いたセル苗直接定植技術を検討しました。



養液土耕栽培によるセル苗直接定植時の状況

養液土耕栽培を用いたセル成型苗直接定植では慣行土耕栽培のポット苗定植に比べ収量が高く、特に10, 11, 12月の初期収量の向上が図れました(図1)。また、施肥量は慣行栽培よりも少なくすみ塩類集積の回避や環境保全の面からも有効な栽培技術と思われました(図2)。

以上のことから、促成ナスのセル成型苗直接定植を用いた養液土耕栽培は実用性が高いと考えられます。

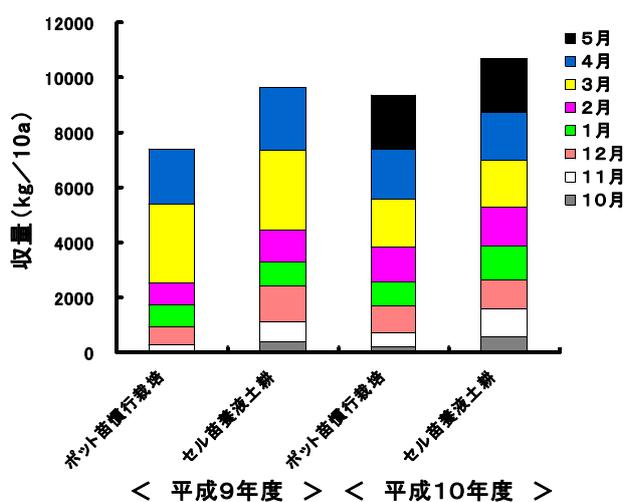


図1 ポット苗慣行栽培とセル苗直接定植養液土耕栽培の収量比較

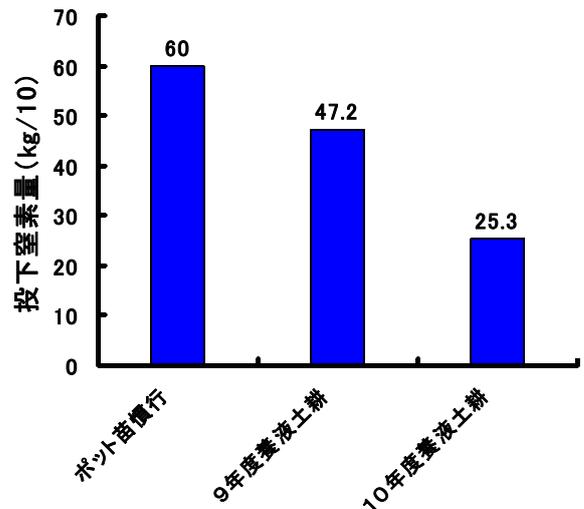


図2 慣行栽培と養液土耕栽培の投下窒素量

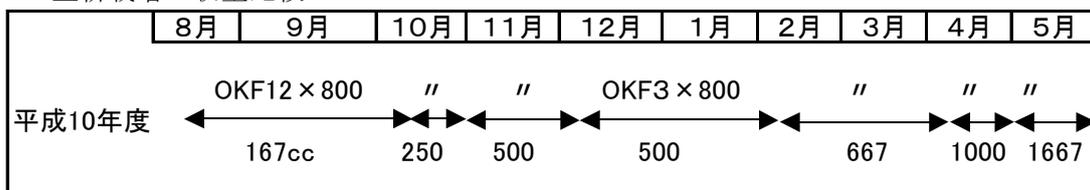


図3 10年度養液土耕栽培の給液管理例(給液量と給液濃度)  
注) 矢印上段は液肥と希釈倍率, 下段は株当たり1日給液量

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
TEL (088) 674-1660

農業研究所 野菜園芸担当  
FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>